

関係委員意見聴取書面	
関係委員 (敬称略)	(所属) 国立大学法人 新潟大学 農学部農学科 教授
	(氏名) 関島 恒夫
聴取日	第一回：令和4年10月28日(金) 第二回：令和4年12月15日(木)
聴取者	環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 竹内 審査官 環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 福田 審査官 環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 新田 審査官
要領2.(3) 利害関係者の除外	
<p>・意見聴取しようとする事業に係る利害関係の有無。</p> <p style="text-align: right;">利害関係 _____ 有 _____ ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 _____</p>	
要領2.(4) 秘密保持の承諾	
<p>・環境影響評価法手続に基づき作成される図書に含まれる希少な動植物種の生息・生育地の情報その他の秘匿すべき情報を外部に漏らさない旨の承諾。</p> <p style="text-align: center;">_____ <input checked="" type="checkbox"/> 承諾 _____ ・ _____ 非承諾 _____</p>	
<関係委員意見概要>	
クマタカについて	<p>(第一回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クマタカ(Bペア、Hペア、及びJペア)の行動圏及び推定された採餌環境好適性区分を見ると、対象事業実施区域の南西側に重要な採餌環境があり、行き来している可能性がある。このような場所に風車が設置された場合、風車への衝突の可能性が生じる。</li> <li>尾根沿いを中心になわばりを誇示しながら帆翔している可能性がある。例えば、Bペアの行動圏のうち東側を見ると、尾根沿いで周辺のペアを意識しながらなわばりを示すため、ディスプレイ行動が確認されたとも考えられる。隣接するペアに対するディスプレイ行動が多く確認されるような位置では、衝突リスクは当然高まる。</li> <li>BペアやJペアは、周辺を他のペアに囲まれているため、行動圏のシフトが難しく、風車の設置及び稼働により繁殖率の低下につながるおそれがある。また、営巣中心域自体が縮小することも考えられ、最終的には生息地放棄につながる可能性がある。</li> </ul>

(第二回)

- 3年間で11ペアのうち約7割が繁殖し、幼鳥が確認されている。この結果は、繁殖成功率が極めて良いと言える。
- 本区域のように、高密度にクマタカが生息する場所に風車を設置するに当たっては、事前に繁殖成績や行動圏の内部構造をしっかりと把握することが重要である。また、事後調査を行い、繁殖成績や行動圏の内部構造といった観点から変化を捉え、著しい影響がないかを確認していくことが重要。
- 供用期間中に、11ペアのクマタカの生息状況がどのような推移をたどるのかをしっかりと確認することが必要であり、供用期間中の特に繁殖期に着目して、適切な頻度で、特に行動圏の内部構造や行動圏の変化、繁殖率の変化等について、風車の設置前と比較し、しっかりとした評価ができるような事後調査を実施することが重要である。
- 本事業については、事後調査で十分なデータを確保し、その後の事業に対するクマタカの応答をしっかりと確認することが大変重要である。